

「景観」を鍵概念とした地理的技能

吉 水 裕 也

Geographical Skill about a “Landscape”

Hiroya YOSHIMIZU

Abstract

According to the course of study for junior high school social-studies, geographical skill occupies the important position. Students learn in fieldwork unit about the geographical skill which reads a regionality from a landscape or a landscape photograph. However, there is no detailed description in the source of study more than it. So, in this paper, In this research, in order to understand the descriptive content and method about a landscape, the National curriculum for England Geography, the scheme of work KS 3 Geography and geography textbook *Key Geography Skills* are analyzed.

As a result, when they made a landscape or a landscape photograph read, it turned out that the study in connection with related recognition or decision making is set up.

Key words

Landscape, Geographical Education, Geographical Skill, Photograph

I 問題の所在

平成10年版中学校学習指導要領解説社会編¹⁾では、「身近な地域の調査」単元で、景観を対象にして調査観察することに関して、以下のような記述がある。

この項目は、地域に広がる景観を対象としてその中から地理的事象を見だし、自分たちの観察や調査の活動を通して資料を作り、それらを基に地域的特色をとらえることができるといった点に特質がある²⁾。

さらに市町村規模の身近な地域の調査が、直接経験地域を対象としていることを踏まえて2つの視点と方法を示し、その第1に景観に関する記述がある。

第1の特質にある景観は、地域の環境条件、他地域との結び付き、そこに居住する人々の営みを総合的に反映している。したがって、景観から読み取った地理的事象を追究すると、他の要素も有機的に関連付けられ、地域的特色を総合的にとらえる基本を学習することができる。一方、景観は現実、現状そのものであり、地図や統計などのようにある規則の下に必要なものだけを取り出すといった作業を経ておらず、このため 様々な事象が取捨選択されることなく存在し広がっ

ている。それだけに、どんな事象に着目し何を捨象するのか、取捨選択して残った事象を位置や空間的広がりとのかかわりでどのようにとらえるのか、すなわち、地理的事象としてどうみいだすかといった能力が問われることになる。したがって、そうした学習は景観をみる観察眼を磨き、地理的事象を自ら見いだす能力を培う上で効果的である。そのため、ここでの学習は、日本や世界の各地を訪れた際に現地の景観を基に地域的特色をとらえる方法を身につけさせることに結びつく。地域に広がる景観を対象にして観察、調査を行うことは、地理学習の基礎であり、重視して扱う必要がある³⁾。

このように、景観や景観写真の読み取りは、重要な地理的技能の一つに位置づけられている。中学校学習指導要領解説社会編では、地理的技能を 地理情報の活用に関する技能と 地図の活用に関する技能に分類しており⁴⁾、景観や景観写真の読み取りは、 地理情報の活用に関する技能に分類されると考えられる。しかし、我が国の学習指導要領では、これ以上の解説はない。重要な地理的技能であり、地域的特色を見いだす鍵になると考えられる景観の観察について、それが総合的であればなおさら具体的視点（内容）と方法を整理しなければ、中学校社会科地理的分野の授業は、適切な社会認識や地理認識を育てられなくなる可能性がある。

地理写真や景観写真、景観の観察に関しては、これまでも数々の研究成果がみられるが、それらは方法論的考察に傾斜しており⁵⁾、内容と方法の両面からの整理を試みたものは管見の限り見あたらない。

そこで本稿では、景観および景観写真に関する読み取りについての授業を設計する際の手がかりを得るため、イギリスの中等教育（KS 3）地理の現状を参考として、景観および景観写真を読み取る際の視点と方法の整理を試みることにする。

Ⅱ．「ナショナルカリキュラム地理」⁶⁾及び「スキーム・中等地理」⁷⁾における「景観」の取り扱い

1．「ナショナルカリキュラム地理」における「景観」

ナショナルカリキュラム地理（KS 1 3）では、「学習プログラム」の中に「知識・技能・理解」という項目があり、その第1のアスペクトにあげられるのが「地理的探究と技能」である。この「地理的探究と技能」における景観や景観写真の読み取りに関する技能を抽出した（第1表）。

ナショナルカリキュラムでは、KS 1から3に進むにつれ、いくつかの項目で発展的に景観や景観写真の読み取りを行わせているのが解る。地理的探究に関しては、「地理的質問」において、KS 2で「これはどんな景観ですか？これについてどのように考えればよいでしょうか？」という問いが例示され、さらにKS 3では「どのようにそしてなぜ景観は変化するのか。変化の影響は何ですか。それらについて私はどう考えますか」と、例示される問いが「何が見られるのか」という事実の認識から、「どのようにそしてなぜ変化するのか」という関係認識に発展している。また、地理的技能では「二次資料の利用」について、KS 1では「CD ROM、写真、ビデオ」という法的拘束力のない例示にとどまるが、KS 2では「空中写真を含む二次資料の利用」とされ、KS 3では「写真、衛星画像、ICTベースのものを含む二次資料の選択と使用（写真には垂直方向および斜め方向からの空中写真を含む）」へと発展する。

以上、ナショナルカリキュラムでは、特に中等段階にあたるKS 3において、地理的質問を用いた景観の変化過程と変化理由という内容的深まりを要求し、また方法面では、二次資料の利用

の面で、写真、衛星画像、ICT の利用へと対象を広げている。

第1表 英国ナショナルカリキュラム地理における「地理的探究と技能」

KS 1	学習プログラム（法的拘束力あり）	例（法的拘束力無し）
1	地理的探究を試みる際に児童は次のことを教えらるべきである	
a	地理的質問	この場所に住むのはどのようなものですか？
b	観察と記録	通りのビルを特定し、図を完成させる
c	人、場所と環境について自身の見解を表す	学校のゴミについて
d	異なった方法での対話	絵、スピーチ、記述
2	地理的技能向上のために児童は次のことを教えらるべきである	
a	地理的用語の使用	丘、川、道路、近く、遠く、北、南
b	野外調査技能の利用	学校計画や地域の地図上への情報の記録
c	地球儀と地図の使用、および縮尺に応じた計画	地図上へのルートの記入
d	二次情報の利用	CD ROM、絵、写真、物語、情報書、ビデオ、人工物（工芸品）
e	地図と計画の作成	物語中の場所の絵地図

KS 2	学習プログラム	例
1	地理的探究を試みる際に児童は次のことを教えらるべきである	
a	地理的質問	ここはどんな景観ですか。これについてどのように考えればよいですか。
b	情報の収集と記録	商店の機能に関する調査を実行しグラフにそれらを示す
c	情報分析と結果の記載 2 地点の人口データの比較	
d	自分自身を含む人々が話題になっている地理的な問題に関して持つ、異なる見解の識別および説明	海外のある地点のホテル建設計画に関する見解
e	課題と聴衆への適切な方法での通信	地域問題に関する新聞に書くこと。他の学校と地域情報を交換するために電子メールを使用して書くこと
2	地理的技能向上のために児童は次のことを教えらるべきである	
a	地理的用語の正確な使用	気温、運輸、工業
b	野外調査の技能と用具の適切な使用	注釈入りスケッチ、雨量計、カメラ
c	地球儀、地図帳、地図の使用と各縮尺に応じた計画	内容、キー、座標の使用
d	空中写真を含む二次資料の使用	物語、情報書、インターネット、衛星画像、写真、ビデオ
e	縮尺に応じた計画と地図作製	地域の略地図
f	地理的調査を支援する ICT の利用	フィールドワークデータを分析するためにデータファイルを作成する
g	意思決定の技能	一般道路の安全性を改善するために、どの手段が必要か決定すること

KS 3	学習プログラム（法的拘束力あり）	例（法的拘束力無し）
1	地理的探究を試みる際に生徒は次のことを教えらるべきである	
a	地理的質問	どのようにそしてなぜ景観は変化するのか。変化の影響は何ですか。それらについて私はどう考えますか。
b	調査の適切なシーケンスの示唆	地域の問題についての見解と事実の証拠を集め、結論に達するためにそれらを使用する
c	証拠の収集、記録、提示	国に関する統計データ、河川の性質に関するデータ
d	証拠を分析・評価と結論の導出・正当化	統計データ、地図およびグラフの分析、計画案に関する異なった意見を提供する公告チラシの評価
e	彼ら自身、同時代社会、環境、経済・政治問題に影響するものを含んで、人々がどのように価値づけ、態度をとるかの認識、およびそのような問題に関する自分自身の価値付けと姿勢を明確にし開発すること	海外援助
f	課題と聴衆への適切な方法での通信	チラシ、注釈付き略地図、場所に関する説得力があるか広範な記述の生成のためにデスクトップパッシングを使用する
2	地理的技能向上のために生徒は次のことを教えらるべきである	
a	地理的用語の発展的な使用	流域（集水域）、都市の再生
b	適切な野外調査技能と機材の選択と使用	土地利用調査、データ記録、カメラ
c	地図帳、地球儀および英国陸地測量部 1：25,000および1：50,000地図を含む 地図の使用および縮尺に応じた計画	
d	写真、衛星画像、ICTベースのものを含む二次資料の選択と使用（写真には垂直方向および斜め方向からの空中写真を含む）	ICT：インターネット
e	縮尺に応じた地図と計画を書くこと。記号とキーと縮尺を使用すること。そしてICTを使用することを含む地図と図形にデータを示す適切なグラフィック技術の選択および使用	注釈付き略地図、円グラフ、コロプレスマップ、商店と中心市街地のサービスをプロットできるマップソフトの使用
f	ICTを用いることを含んだ異なった方法での対話	環境問題に関するレポート、電子メールを用いてデータを交換
g	ICTを用いることを含んだ、意志決定の技能	スーパーマーケットの最適立地点発見のための表計算ソフトの使用

(筆者作成)

2. 「スキーム・中等地理」における「景観」

「スキーム・中等地理（A Scheme of work for Key Stage 3, Geography）」は、イギリス中等地理の単元計画例示案である。

この中で景観や景観写真の読み取りに関係の深い「単元12 国家のイメージ」（第2表）をとりあげ、その内容の分析を行うこととする。

本単元は、5つの節から構成されている。

第1節の学習テーマは「これらの場所はどんなところか？」であり、ここでは写真の読み取りのためにDCRプロンプトの適用が行われる。DCRプロンプトとは、4方位のNEWSに、Natural/ecological questions, Social and cultural questions, Economic questions, Who decides? Who benefits? ie. the political questions のそれぞれの頭文字をあてた地域や写真に関する疑問を生成するためのフレームワークである。これによって情報を分類する手だが、自然、社会・文化、経済、意志決定という4つの内容的なフレームワークで提示される。生徒たちは、写真を含んだ二次資料を用いて、2人組で分析フレームワークを用いた写真分析とその記載を行う。

第2節では「写真家は観察者の中にどんな感情を生み出すか？」という学習テーマが設定される。ここではセット写真が用いられ、写真分析のための様々な戦略が学習される。生徒たちは、自分の好きな写真を選んでその理由を紹介する活動や、写真の中に自分自身の身を置いて考える役割活動を通して、写真についての肯定的・否定的感情などのイメージについて伝えあう、いわゆるメディアリテラシー学習的内容となっている。

第3節では「どんなメッセージが伝えられるか？」という学習テーマが設定される。経済的な発展段階の違う国のイメージ写真がセットで提供され、そこからそれらの国々の共通点と相違点の読み取りが行われる。生徒の持つ知識を適用して、写真読み取りを行って地域イメージを形成するトレーニングが行われる。

第4節では「誰がこの見解を選んだのか？なぜこの見解なのか？」という学習テーマが設定される。メディアの作成者や情報提供者の意図を読み取るための価値観や態度を育成しようとする意欲が伺われる。

最終の第5節では「写真は場所の全てを語るのか？」という学習問題が設定される。メディアが、人々の場所に対する理解に対して影響力を持つこと、場所の認識はしばしば誤って伝えられることを通じ、反省的に自己評価を行うことを目指している。持続可能なライフスタイルやどのようにステレオタイプが形成されていくのかといった事柄について、動画も利用しながら体験的に学ぶ。

以上のように、「スキーム中等地理」では、国家のイメージがどのように形成されていくのかを学ぶ、メディア研究に近い内容となっていることが解る。内容では、DCRプロンプトというフレームワークの利用により、自然、社会・文化、経済、政治（意志決定）という視点を設けて景観を分析的に扱っている。また、景観そのものではなく、それを切り取った写真には撮影者の意図するメッセージが込められていることを踏まえなければならないことに対する注意が促されている。方法としては、共通点と相違点を探す比較・対照の手法などが用いられている。

第2表 「スキーム・中等地理」, 単元12「国家のイメージ」

単元12「国家のイメージ」	
<p>単元について この単元は、国家についての生徒たちの第一印象を問うことにより、生徒の場所についての理解を改善することを目的とします。それらは、ステレオタイプがどのように作られるか、また、これらの視点がどのように分解できるのかを調べます。生徒たちは、情報源が異なるもののバイアス認識を学び、教科書、静止画、動画中の情報分析フレームワークの利用の仕方を学びます。</p> <p>この単元では、少し変わった国の紹介の仕方を学習します。それは単元11の「ブラジル発見」または他の地域を焦点化した単元を補足することが出来ます。本質的には、それは完全な国家研究ではありません。本単元は、4～7時間配当です。</p> <p>重要な地理的アспект 地理的探求と技能 生徒たちは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値と態度を評価するでしょう。 ・二次資料を用いるでしょう。 ・証拠を分析し、結論を書くでしょう。 ・野外調査の技能を使うでしょう。 <p>場所についての知識・理解 生徒たちは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所と環境を位置づけるでしょう。 <p>パターンと変化過程についての知識・理解 以下を通して調査されるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済発展状態の違う2か国 <p>環境の変化と持続可能な発展に関する知識・理解 生徒たちは以下について学ぶでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な開発 	<p>期待 この単元の最後にはほとんどの生徒は：テキストノイメージが完全な絵を示さないことを説明するおよび記述する。たとえばDCRのようなイメージを解釈する様々な方法を使用する。DCRを使用して適切な地理的な質問を示唆する。身近な地域およびブラジルの肯定的・否定的イメージを識別し、自分の見方について説明します。「ステレオタイプ」および「持続可能な開発」という用語を正確に使用する。それらはどのように調査技能を高めるのか認識する。</p> <p>何人かの生徒はそんなに進歩しないでしょう：テキストノイメージが全体像を示さないことを認識します。DCRを含むイメージを解釈する多くの異なる方法を使用します。DCRを使用して適切な地理的な質問を示唆し始めます。ブラジルと英国のイメージについての類似点と相違点を記述します。写真に示された自然・人文的特徴について記述します。身近な地域の肯定的・否定的のイメージを示唆し、自分の見方について説明します。「ステレオタイプ」および「持続可能な開発」の意味を認識します。それらはどのように調査技能を高めるかもしれないのか認識し始める。</p> <p>何人かの生徒はさらに進歩するでしょう：異なるテキストノイメージの目的および視点を示唆します。イメージ、例えばDCRを解釈する様々な方法を有効に使用します。DCRを使用して、自分の適切な地理的な質問を識別します。人々の異なる価値および態度が肯定的・否定的イメージの選択にどのように映っているか認識します。「ステレオタイプ」および「持続可能な開発」という用語を正確に使用し例証します。調査技能を改善する方法を識別します。</p> <p>これまでの学習 生徒たちは以下の経験があると有用でしょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7年生配当の他のいくつかの単元を学習していること。たとえば単元1「関連作り」、単元3「様々な場所の人々」また単元5「英国調査」 ・写真を使用した経験 ・探究的アプローチを行ったこと <p>学習用語 この単元の活動によって、生徒は、次のものに関係のある言葉を正確に理解し、使用することができ、綴ることができるとして：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認識と価値：たとえば社会経済学、感情、正当化、クオリティー・オブ・ライフ、スラム街、持続可能、肯定的、否定的、観察者、メッセージ、メディア、誤って伝えられたイメージ、ライフスタイルイメージ、ライフスタイル、バイアス、ステレオタイプ、感情 <p>読むこと 活動を通して生徒は次のことができるようになる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明示的に述べられていない、または読者が理解すると推測される情報についての理解
<p>本単元の節 この単元は節に分割されます。各節は、学習目標と学習成果に関係した学習活動のシーケンスを含んでいます。この単元は、節を移動すること、または単元全体を印刷またはダウンロードすることによって参照することが出来ます。</p>	

学習目標 生徒たちは以下のこ とを学ぶべきである	可能な学習活動	学習成果 生徒たちは	学習成果	
	<p>第1節：これらの場所はどんなところか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DCR を用いて情報进行分类する方法。 ・ 写真を含んだ二次資料の利用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を分析するために DCR プロンプトを適用する。 ・ 正確な自然的・人文的特徴を識別する。 ・ 別の生徒がそれを描くことができるほど、充分イメージを記載することが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ DCR はあなたの最も近い開発教育センター（DEC）から利用可能です。 	
	<p>第2節： 写真家は観察者の中にどんな感情を生み出すか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真の分析のための様々な戦略の利用。 ・ 写真場面への彼ら自身の投影。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1セットの写真から、肯定・否定のイメージを作表するようにペアで活動するように指示して下さい。この、そして以下の活動のために、回答を記録したノートを保存するように指示して下さい。 ・ 同じセットの写真を用いて、グループの中の他の生徒に好きな写真について話すように指示して下さい。例えば、「私はこれが好きです、なぜなら・・・」のように。 ・ 人がたくさん写っている写真を用い写っている一人の特別の人を認識し、写真に写っている中での役割を5分間で想像するように指示して下さい。 ・ それらのグループにおけるそれらの個々の役割を実演してくれるように生徒に指示して下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イメージの肯定的・否定的側面を記述する。 ・ イメージについての彼ら自身の考えや気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真をラミネート加工すると長く使える。
	<p>第3節：どんなメッセージが伝えられるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済の発展段階が異なる場所を比較する為の写真の使用。 ・ ある場所の写真を位置づけるための知識適用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループに、3つの異なった写真を与えて下さい。例えば、ブラジルのチャリティーパック、観光/ビジネスパック、地元の視点からの否定的なイメージ。各グループに、クオリティオブライフ、建築資材、汚染、天気と気候などの、類似点と相違点についての表を完成するように指示して下さい。 ・ 各写真の位置を示唆し、かつそれらの選択を正当化するように生徒に指示して下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライティングフレームの中にアイデアを作表し、場所内のそして場所間の類似点と相違点を認識する。 ・ 写真の撮影位置を提案し、それらの決定を正当化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異なった出典の写真は同じサイズにしてすべてラミネート加工すべきである、そうすることによってあなたも一つのパックのように見える。

学習目標 生徒たちは以下のこ とを学ぶべきである	可能な学習活動	学習成果 生徒たちは	留意点
<p>第4節：誰がこの見解を選んだのか？なぜこの見解なのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの価値と態度の明確化と発展。 ・彼らが使用する資料の注意深い調査方法。 ・普通の文脈への新しい考えの適用。 ・フィールドワーク機材の使用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本、パンフレット、web サイト、動画（映画とドキュメンタリー番組）等の中で使用される情報は誰が選択するか、また、彼らがその選択によって何を達成することを望むか、生徒と議論してください。これは生徒を興味、バイアス、絶対的な価値などの考えへと導き、そして、これはクラスが、彼らが使用する資料を調べるためのいくつかの質問（例えば、それはどこから来ましたか。誰がそれを書いたか／組み立てましたか。それは個人あるいはグループ、例えば企業、政府、圧力団体の仕事ですか。お金はどこから来ますか。根本的なメッセージは何ですか）を識別する小さな研究計画へと導くことが出来る。 ・彼らの研究から答えを共有し、かつ「情報提供者」に関して学習した3～4つのポイントを識別するためにグループの中で生徒に問いかけて下さい。 ・町制150周年、学校のweb サイト、地方観光局、学校のスポーツ施設改善のための宝くじ入札、住宅地区を改善するためのEU基金の受け入れなど、様々な出来事／状況に適切な身近な地域の静止／動画イメージの選択のために議論による考えを適応するように生徒に問いかけて下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ興味、バイアスおよび絶対的価値に関して、特別のイメージが選ばれるか説明します。 ・特定の目的のために身近な地点のイメージを選びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題：同じトピック上で少なくとも3つの出所（教科書、ウェブサイト、パンフレット）を分析し、かつ各々のための質問に答えてくれるように生徒に指示してください。 ・学習用語：この活動は、生徒に明示的に述べられない、又は、読み物は理解のための仮定であるという情報を理解する機会を提供します。 ・ICT：この活動は、生徒に地方のエリア上の情報バックやビデオを作成するために通常のカメラやデジタル・カメラやビデオカメラを使用する機会を提供する。 ・メディア研究や動画：「シネリテライトになる」に役立つ情報は映画教育ワーキンググループによるレポートが出版されている（資料を参照）。
<p>第5節：写真は場所の全てを語るのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の知覚を疑う方法。 ・認識はしばしば誤り伝えられることについての理解。 ・メディアは、人々の場所に対する理解に影響を及ぼす力を持つこと。 ・持続能力を示す証拠のためのイメージの検討。 ・自分の行動の継続的反省と評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最も大切な物としてイメージを使用、そして写真の継続を作成しようとするように生徒に指示してください。つまり、何がその正面にあり何がその側面にあるのかと言うことです。 ・次に、一分以上同じ写真の部分を生徒に与えてください。そして、それらはより多くの情報が与えられるとともにそれらの見方がどのように発展するかまたは変わるか彼らに説明させてください。 ・自国についての認識またはステレオタイプについて分析と評価をするように生徒に質問してください。たとえば、映画を通して日本とケニアの生徒がイギリスについてどのように見るか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知覚は誤り伝えられ得ることを認識して、場所について自分自身での知覚に挑戦し始めます。 ・他の人々の場所に対する認識に挑戦するために選択すべきイメージを提示します。 ・人々の見方に影響を及ぼすメディアの力を認識します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は、インターネット経由で異なる国々の二者択一的イメージにアクセスすることができます。ニュースと政府のサイトは興味深い情報源を提供してくれます。教師は、それらを大型スクリーンで投影し、クラス活動としてイメージに注釈をつけることができます。 ・重要技能：イメージのより熟考された解釈が目標である自分自身の学習と活動の改善とのつながり。生徒は Plan-Do-Review サイクル

- ・ 誤り伝えられた知覚を正すために情報パックに何を含めるべきか彼らと議論してください。
 - ・ 生徒にスラム街のイメージのパックを与えて、彼らの第一印象をリストするための内容を使用してくれるよう彼らに指示してください。次に、それらが例えば、再利用の証拠、持続可能な輸送、絶縁よりはむしろ喚起といった、より持続可能なライフスタイルを反映する証拠を見つけようとしていることを示唆してください。
 - ・ 活動の終わりとして、生徒に、「写真は観察者にどんな感情を生成しますか」を、同じ写真を使用して、またそれらの反応をオリジナルのものと比較することという2つの活動を繰り返すように指示してください。
 - ・ 次に、彼らの仕事と学習について熟考し、批判的に評価するように指示してください。これを短い段落に記録し、それは彼らがどのように今後イメージの解釈を改善するだろうかということもまた記録してくれるように指示してください。例えば、彼らがたどる必要のある一連の小さなステップの認識。
 - ・ 他の人々のライフスタイルが彼らのもよりいかに持続可能かもしれないか認識します。
 - ・ イメージの彼らの解釈が改善される方法を確立しません。
- を用い、目標の理解およびこれらにどのように遭遇するか確認し、支援を用いて計画をフォローし業績と進歩を振り返る。
- 安全性
- ・ 遠隔地訪問は、すべてLEAと学校のガイドラインに従って行なわれなければなりません。

<p>資料 次の資料が含まれる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビデオ番組 ・ The geography programme - Brazil 2000 (BBC Schools) ・ Japan 2000 (the teacher's resource pack that supports these programmes considers Japanese pupils' views of the UK) ・ Notes from a small island by Bill Bryson (BBC) ・ Favela pack Fala Favela from CAFOD ・ Maps of exclusion: images, ideologies and a geography of modern Brazil by Colm Regan (1998) 	<p>これからの学習</p> <p>この単元は、生徒に QOL 学習の準備をさせ、単元16「開発とは何か」、単元20「国の比較」、単元23「地域の行動、地球への影響」で調査する国に対する異なった見方についての学習の準備をさせます。さらに、単元14「地球は対処できるのか」において、生徒の事実と仮説/理論/見解などの区別の一層の研究の準備をさせます。この単元は、人口、開発およびデータとイメージ分析技術(そしてG C S Eレベルのメディア研究の有用な基礎である)についてG C S E地理の基礎を提供します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ extracts from The lost manuscript by Ruben Fonseca (1997) ・ websites, eg http://darkwing.uoregon.edu/~sergiok/boaviagem.html; www.ibge.gov.br/english/ ・ Making movies matter, Report of the Film Education Working Group (pages 73- 9), British Film Institute, 1999 (website: www.bfi.org.uk) 	<p>リンク</p> <p>本単元の活動は以下とリンクしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の地理の単元：単元は他の国々の学習を含んでいる(単元1, 3, 5, 11, 17, 20), および単元14「地球は対処することができるか」、単元16「開発とは何か」 ・ ICT: インターネット検索エンジンの使用, 異なるタイプのカメラの使用 ・ 重要技能: 自己の学習と活動の改善 ・ メディア研究: 動画の研究

・ DfEE/QCA (2000) *A scheme of work for Key Stage 3, Unit 12 Images of a country* より筆者作成。

Ⅲ . Key Geography Skills⁸⁾における景観写真の読み取り

英国中等地理教科書 *Key Geography* は、比較的高いシェアを占める教科書である。

KS 3用の *Key Geography* には *Skills* という教科書があり、まさに地理的技能の習得を目指す内容となっている。内容は、グラフ、地図、写真、記述、探究という具合に技能と探究を含む構成となっている(第3表)。そこで本稿では、本書の「写真」単元を抽出し、その内容について分析したい。

Key Geography では、「スキーム・中等地理」と同様に、毎時の学習テーマが問いの形で示されており、*Skills* も同様である。また写真を中心とした本文に関する「アクティビティー(学習活動)」が毎時設定されており、活動を通して学習内容の定着が図られている点も「スキーム中等地理」と類似の形式である。

ここでは「写真」単元の10の学習テーマ(第4表)を取り上げ、その内容について分析する。

第3表 *Key Geography Skills* の単元構成

<i>Key Geography Skills</i>	
グラフ	pp.4 23
地図	pp.24 51
写真	pp.52 71
記述	pp.72 91
探究	pp.92 109
	pp.92 109
用語 索引	

(筆者作成)

第4表 *Key Geography Skills* 写真単元の学習テーマ

<p>私たちは地理でどのように写真を使うことができるか？ 我々は写真で自然的特徴をどのように読み取ることができるのか？ 海岸の景観をどのように記載することができるか？ 集落学習にどのように写真を使うことができるか。 どのように写真スケッチを描くことができるか。 写真からどのように記録することができるか。 空中写真は何を示すか。 どのように衛星写真を利用できるか。 気象衛星画像は何を示すか。 地図と写真をどのように一緒に使うことができるか。</p>

(筆者作成)

第1時では、「私たちは地理でどのように写真を使うことができるか」という学習問題が提示される。撮影方法による3種類の地理写真についての説明がなされたあと、地理写真を使う際のポイントとして写真のタイトルへの注目、写真全体を見ること、主要な特徴への注目、関係性への注目といった「方法」と、写真が何を示すか、学習上重要な特徴は何か、どんな特徴があり、それはなぜかという読み取りの上で重要な「内容的視点」を与えるための問いが例示される。その上で海岸近くでの崖崩れの斜め上方からの航空写真の読み取りがアクティビティーとして設定されている。

第2時では、「写真から自然的特徴をどのように読み取ることができるのか？」という学習問題が設定される。ここでは自然的特徴を読み取るためのチェックリストとして「起伏、水系、植生」という内容的視点が示され、それぞれの内容的視点についての読み取り方法がキー質問として設定されている。例えば、起伏については、この地域の起伏は、概ね平坦か、丘陵状か、山岳か。この地域の斜面は急か、緩やかか、そしてそれはこの地域全体の傾向か、といったキー質問が設定されている。アクティビティーではアメリカ合衆国コロラド州の地上からの景観写真が提示され、チェックリストとキー質問に沿った読み取りが行われる。

第3時では、「海岸の景観をどのように記載できるか」という学習問題が設定されている。第2時が自然的特徴の読み取りだったのに対し、第3時では、海岸の自然的特徴である地形と、護岸等のために改変された人工地形の読み取りを行っている。自然の力によって形成された海岸地

形と、防波堤等の人工地形である。これらも第2時同様、チェックリストとキー質問の設定により、内容的視点と方法を提示している。アクティビティーではハンプシャーのHurst城砂嘴の斜め上方からの航空写真が提示され、砂嘴の地形と人工海岸、砂嘴上の建築物に関する読み取りを行わせている。

第4時では、「集落学習にどのように写真を用いることができるか」という学習問題が設定されている。集落に関して用地、土地の状況、土地利用パターンという重要な内容的視点を示し、それを基に、集落のパターンは？ 町や村の様子は？ 土地利用パターンは？ そこへのアクセスは？ という4つのキー質問を提示している(第5表)。アクティビティーでは、ニュータウンであるハーロウの斜め上方からの航空写真を提示し、主に土地利用パターンの読み取りを行わせている。

第5表 集落学習のキー質問

<p>集落のパターンは？ 町や村がたくさんあるか、または少しか。その地域以外にもいくつも広がっているか、その地域だけか。</p> <p>町や村の様子は？ それらはどこに立地しているか？ それらの用地や状況は？ それらは高地に、低地に、川沿いに、海沿いに、または資源の近くにあるか。</p> <p>土地利用のパターンは？ 集落は密集しているか、オープンスペースがよく計画されているか。どんなタイプの土地利用パターンか。古い集落か、新興集落か。</p> <p>アクセスは？ 道路 鉄道又は他の交通機関はあるか。その町は簡単に到達できるか、それともコミュニケーションは困難か。</p>

(筆者作成)

第5時では、「どのように写真スケッチを描くことができるか」という学習問題が設定される。ここでは写真をもとにしたスケッチの方法を学ぶが、重要な視点は、情報が多すぎる写真から重要な特徴を抽出する重要性である。その上で、写真に座標をかけた上で注意深く見る、座標を利用して写真と同じ大きさで全体の枠組みを描く、植生や建物などの特徴を描く、重要なものや描きにくいものに矢印を入れてラベルを付けるという写真スケッチの4ステップを示す。写真にある全てを描くのではなく、重要なものを抽出した上でクリアにそして単純化して描き、ラベルを付けることが大切であると説く。アクティビティーでは、写真スケッチを上手に描くコツをキーワードを使って書き、またタイのラマイ海岸の写真スケッチに指定されたラベルを付けさせている。指定されたラベルを付けることが内容的視点を与えることにもなっている。

第6時では、「地理写真からどのように記録することができるか」という学習問題が設定される。写真や地図など多くの情報を含むものから何を抽出し要約(summary)を書くのかということである。要約の仕方は、3つのステップで紹介される。第1ステップは、第1時で学習した写真の見方である。全体を見て主な特徴を読み取る「見る」段階である。第2ステップは、学習テーマにあった特徴を「選ぶ」段階である。これは第5時の写真スケッチでの経験が生かされるステップとなる。第3ステップは、それらを短い文で「書く」段階である。アクティビティーでは、ブラジルのコパカバーナビーチの景観写真が提示され、その写真から読み取った文の正誤判定と、写真の主な特徴の読み取りが行われた後、3つの要約文のうち最も優れたものを選択するという活動が設定されている。

第7時では、「空中写真は何を示すか」という学習問題が設定される。真上からとられた空中写真と斜めからの航空写真や地図との比較によって、詳細な情報を提供する空中写真と、そこから情報を抽出した地図との違いを認識させている。アクティビティーでは、航空写真と地図を見ながら、航空写真にラベルを付けることや、空中写真から河川の汚染などを読み取らせる活動が提供されている。

第8時では、「どのように衛星写真を利用できるか」という学習問題が設定されている。ここではこれまでの狭い範囲を撮影した写真とは違い、広い範囲を撮影した写真が様々な情報をもたらすことを学習する。アクティビティーでは、様々な仕事に衛星写真が用いられること、異なった色を用いて写真を表現する理由など衛星写真の用途の広さについて学ぶ。

第9時では、「気象衛星画像は何を示すか」という学習問題設定される。気象衛星画像が雲のパターンなど示し、天気予報に役立つことを学習する。アクティビティーでは、西ヨーロッパ付近の気象衛星画像と天気図等を比較して、前線や等圧線を描き込む作業を提供している。

第10時では、「地図と写真をどのように一緒に使うことができるか」という学習問題が設定される。斜めからの航空写真が特徴物や起伏、植生、建物や土地利用といった特徴を捉えやすいことや、斜めからの航空写真を見るときにはまずその撮影方向を特定し、地図の向きとあわせることが説明される。アクティビティーでは、ブリッジノースの斜めからの航空写真に関して、撮影方向、地図との組合せで特徴物を特定すること、また河川沿いの写真スケッチを描かせている。

このように *Key Geography Skills* では、「写真」単元の前半部分で、景観写真を読み取る際の内容的視点となるチェックリストが示され、各内容的視点であるチェックリストに対応して、その読み取りを助ける「キー質問」が方法として提示されていることが解った。また、写真スケッチを通じて、多くの情報が盛り込まれた写真から重要な情報を抽出することの大切さが学習され、また写真と地図の組合せにより、より効果的に景観写真の読み取りができることが示されている。ただ、「スキーム・中等地理」で示されたような意志決定に関わる内容など、総合的メディアリテラシーとしての内容は本單元にはみられない。これは本書の性格上仕方ないことかもしれない。本書では、意志決定に関わる記述を、「写真」単元の次の「記述」単元の最後に「記述のフレームをどのように使うことができるか」という学習問題を設定して取り扱っている。パイパス建設に関するコンフリクト状況を捉えるアクティビティーを設定することによって、意志決定をする際の枠組みを提供しているのである。

IV . 結

学習指導要領に示されている地理的技能のうち、「景観」をみる観察眼は重要な技能のうちの一つであると位置づけられている。その技能を内容的にまた方法的に適切に習得させるための手がかりを得るために、イギリスの「ナショナルカリキュラム地理」、「スキーム・中等地理」、教科書記述を参考に検討した。本研究の成果は以下の通りである。

「ナショナルカリキュラム地理」では、学習プログラムに於いて景観の変化の過程と理由を問う時間軸を組み込んだ地理的質問と、写真等を用いる二次資料の活用に関して景観を対象とした記述が見られた。

「スキーム・中等地理」では、単元12において、総合的メディアリテラシー学習的な内容で、景観写真を利用した学習が提示されていることが解った。

分析した中等地理教科書 *Key Geography Skills* では、景観写真の読み取りのためにチェックリストとキー質問の利用が行われ、それぞれが視点と方法に対応していることが解った。本研究は、「景観」を鍵概念とした地理教育における問題発見構造とカリキュラム開発研究の一環として行われているものである。今後の課題としては、以下のことが考えられる。

景観を研究主題とした地理学研究者が、どのような研究課題を設定し、その研究の中で

のような問いを設定しているのか明らかにする。

それらの問いを内容的に構造化し、景観を学習対象とするときにどのような内容構成をする必要があるのか確定すること。

その内容的枠組みを基に、問題発見内容と方法の関連を踏まえた授業づくりを行うこと。

【註】

- 1) 文部科学省(2004)中学校学習指導要領(平成10年12月)解説社会編,大阪書籍,208 p.
- 2) 前掲書1), p.46.
- 3) 前掲書1), pp.47-48.
- 4) 前掲書1), p.76.
- 5) 石井 実・寺本潔(1990)地理写真の教材化に関する方法論的考察,新地理38 2, pp.37-43.
- 6) QCA(1998)*Geography in the National Curriculum for England*.
- 7) DFEE/QCA(2000)*A Scheme of Work for Key Stage 3, Geography*.
- 8) Tony Bushell(2003)*Key Geography Skills*, Nelson Thornes, 112 p.

【附記】

本稿の執筆にあたり、平成18～20年度科学研究費助成金(基盤研究(C))『景観』を鍵概念とした地理学習における問題発見構造とカリキュラム開発(課題番号:18530733 研究代表者:吉水裕也)の一部を使用した。